



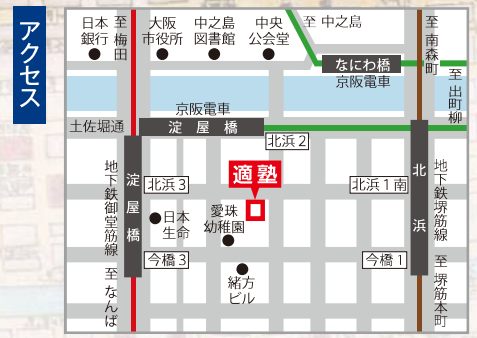
令和元年 適塾特別展示

# 北船場地域と 適塾・除痘館

会期 2019年 6/4<sup>火</sup> - 16<sup>日</sup>

会場 適塾 (史跡・重要文化財)  
開館時間: 10時~16時  
大阪市中央区北浜3-3-8  
電話 06-6231-1970

入館料 一般260円(140円)、  
高校生・大学生等140円(80円)  
※( )内は20名以上の団体料金、  
要事前申込み、詳細はホームページ参照  
小学生・中学生 無料 ※中学生以下の方は引率者が必要  
大阪大学の学生 無料 ※要学生証提示



大阪市中央区北浜のオフィス街に現存する適塾は、我が国唯一の蘭学塾の遺構です。適塾は、天保9年(1838)に蘭医学研究の第一人者とされる蘭方医緒方洪庵(1810-1863)によって、大坂の瓦町に開かれました。弘化2年(1845)、洪庵は当時の過書町に町屋を購入し、この地に移転します。これが現存する適塾です。また万延元年(1860)には、過書町をひとつ南に下った尼崎町一丁目(現・今橋三丁目)に洪庵らが開設した種痘(天然痘予防)事業の普及拠点である除痘館が移されました。これらはいずれも北船場地域にあります。

洪庵は、大坂の中でも政治・経済・文化あらゆる面から重要な北船場を、自身の学問・医業と、塾生の教育を行う場として選んだのです。洪庵や塾生はどのような環境で、どのような人々と関係を取り結びながら、この地で研鑽を積んでいたのでしょうか。

今回の特別展示では、洪庵や塾生らを見守り育んだ北船場地域の歴史を紹介します。本展示を通して、適塾が蘭学塾として隆盛をほこった時代の北船場の息吹を感じ取っていただければ幸いです。



## 洪庵の町家購入と適塾の移転

### 「永代売渡申家屋敷之事」 えい たい うり わたしもうすい え や しき の こ と

緒方洪庵が瓦町に適塾を開いたのは天保9年(1838)のことでした。それからまもなく医業が繁盛にむかい、塾生もふえて塾が手狭になってきたのでしょう。開塾から数年経った弘化2年(1845)、洪庵は過書町の町家を購入し、ここに移転します。これが現存する適塾です。

「永代売渡申家屋敷之事」は家屋敷を購入した際に売主から購入者に宛てて提出される史料で、これは洪庵が町家を購入した際に作成されました。しかし洪庵が購入したにもかかわらず、この史料に洪庵の名は見当たりません。洪庵はどのようにして町家を手したのか、その謎を解き明かします。



「永代売渡申家屋敷之事」 弘化2年(1845) 家屋敷売主滋賀屋忠右衛門ほか  
(大阪大学適塾記念センター所蔵)

## 適塾があった過書町の様子を伝える希少な史料

### 「安政三年 過書町水帳」 か しよ まち みず ちよう

「過書町水帳」 安政3年(1856)  
(大阪市立中央図書館所蔵)

江戸時代の大阪の各町では、町内の家屋敷の所有状況を示した台帳である水帳が数十年間隔で作成されていました。水帳には敷地の間口・奥行き・所有者などの情報が記載され、次の水帳が作成されるまでの間、屋敷の所有者などが変更されるたびに張紙をつけてそれに名前や異動の理由、異動があった年月日を記しました。

この水帳は安政3年(1856)に作成された過書町の水帳です。過書町は適塾の移転先で、現在の大阪市中央区北浜三丁目にあたります。洪庵が自身の住居と塾生の教育を行う場所として選んだこの町は、当時どのような環境下にあったのでしょうか。この史料は洪庵存命中の適塾界隈の様子がわかる数少ない史料の一つです。さらに安政3年以降、この水帳が使用されていた明治初期までの町の変化の様相もつぶさにわかります。



## 種痘事業の拠点、除痘館があった町

### 「安政三年 尼崎町一丁目水帳附図」 あまがさきちよう いっ ちよう め みず ちよう ふ ず

嘉永2年(1849)、洪庵らは大阪の古手町に天然痘(疱瘡)予防のワクチン接種を行う施設・除痘館を開きます。天然痘はかつて、感染率・死亡率ともに高く、完治しても顔に「あばた」が残ったり失明したりするなどの影響を及ぼしたことから、人類にとって最も恐るべき感染症の一つでした。しかし1798年にイギリス人医師ジェンナーが発表した牛痘種痘法によって安全で効果的な予防が可能となります。この牛痘種痘事業の普及を目指した洪庵らは、除痘館をその拠点としたのです。その後万延元年(1860)に、除痘館は尼崎町一丁目に移転します。

この水帳附図は安政3年(1856)に同町で作成され、明治初期まで利用されていたものです。水帳附図は水帳とともに作成される地積図で、当時の町内の様子を視覚的に示しています。この町は東西に長い町で、約2メートルにも及ぶ水帳附図には除痘館の他にも懐徳堂や有名な豪商の名がみえます。



「尼崎町一丁目水帳附図」 安政3年(1856)  
(大阪大学大学院経済学研究科 経済史経営史資料室所蔵)